

本を「使える化」する —— 情報がすぐに取り出せる記憶法

「はじめに」にも書いたように、本書の特徴はアウトプットを念頭において読書することを勧めている点です。アウトプットとは、本で読んだ内容を人に話したり、レポートに書いたり、アイデアに生かしたりすることです。そのためには、ただ漫然と本を読んではいけません。最初から最後まで、とにかくアウトプットを意識することが大事なのです。

特に私が重視するのは、アウトプットのための準備です。いわば「プレアウトプット」。つまり、本を読みながら行う作業のことです。これは本を読むというインプットの作業とは異なります。はっきり言って本書では一番大事な部分です。だから第一章にもつてきたわけです。後で詳しく書きますが、どんな本でも、実は一番大事なこ

とは最初に書かれているものです。もちろん小説は別ですが。

以下では、プレアウトプットのための数々の方法をご紹介します。

本を自分のものにするということの意味

本を読んでその中身を生かす、つまりアウトプットに生かすということは、**その読んだ本が自分のものになっている**ということです。本の全体の流れ、趣旨、山場、印象的なフレーズ等々。そうしたものがあなたかも身体の一部になったかのごとく、自分の中に浸透した状態になっていることが必要です。

そもそも知識を身につけるといえるのは、そういうことなのではないでしょうか。知る前と後とでは何が変わるのかというと、**思考法**です。つまり、新しいことを知ると、それが自分の思考の一部になります。

たとえば、ニラとスイセンの葉が似ており、間違つて食べると死んでしまうということを知ったとします（ちなみに、私がこのことを知ったのもある本からの情報です）。そうすると、それ以降はニラを見るたび大丈夫か疑うようになるでしょう。あるいは、そ